

日米学生の集いにおける

ジョージ・ブッシュ・アメリカ合衆国大統領のあいさつ

(一九九二年一月七日、京都)

ご紹介ありがとうございます。皆さんどうぞ座ってください(笑い)。先ず、極めて有能なアマコスト駐日アメリカ大使と同席できて、とても嬉しく思っています。大使はすばらしい仕事をしておられます。彼は、はえぬきの外交官上がりの偉大な大使の一人であり、難しい重要な任地において、立派に職務を果たしておられます。本日、大使に同席していただき、私はとても嬉しく思っています。

また、海部俊樹前総理にもご同席いただき、とても嬉しく思っています。海部氏が総理であった当時、私たち二人は、世界平和や日米間の理解増進に関連した多くの問題に関して、緊密に協力しながら仕事をしました。海部氏は、率直で、正直な方であり、偉大なわがアメリカ合衆国に対して友好的でありました。私に対する海部氏の度重なるご好意を私は決して忘れることはないでしょう。そしてこの偉大な二国間の関係を強化するために海部氏が果たされた功績も、私は決して忘れないでしょう。海部さん、あなたのご尽力に感謝いたします(拍手)。

訪日の第一日目に、日本国民の心のふるさとである神社仏閣の古都、京都を、またこのあと午後には、奈良県の橿原市を訪れることは、私にとって大きな喜びであります。私は、友人として日本にやってみりました。そして明日から東京で始まる日本政府との会談で討議する案もいくつか用意してきました。また私は、この偉大な国について偏見なく大いに学びたいという関心ももっています。ここで私は、こちらにおられる市長および町長さん、熊倉町長、青木市長、工藤町長の功績を称えたいと思います(拍手)。お三人とも、地方の市長および町長さんですが、アメリカの大学の日本分校の設立にご尽力されました。この点については、私以上に皆さんの方が良くご存じですが、これらの草の根の交流は両国に重要な恩恵をもたらすと、私は確信しています。市長ならびに町長さん、皆さんのお仕事に感謝申し上げます。

学生の皆さん——ところで、これは業界用語で言えば「顔見せ」的な感じで、私はすぐにも失礼しなくてはならないのですが——スタンフォード・日本センターの学生さんは、何人おられますか。同志社大学のAKP(アソシエイト・キョウト・プログラム)の学生さんは、何人おられますか。こちらに一、二名おられますね(笑い)。全部こうして調べ上げていたら面白いでしょうね。ミシガン大学の学生さんは、何人いますか(拍手)。

テキサス農業大学はどうですか（拍手）。数は少ないけれども、元気のいい学生さんが何人かこちらの方におられますね。

ところで、先ほど、前総理が言われたことですが、アメリカ人なら知っているように、アメリカの大統領は皆、大統領を辞めると、図書館——資料館——を建ててもらいます。私の図書館は、私の故郷テキサス州のテキサス農業大学に設けられることになっており、とても楽しみにしています。でも、その日が早く来すぎても困りますが（笑い）。

きょうこちらに来ておられるジャーナリストの皆さんのために、すでにご承知だとは思いますが、ご説明したいことがあります。現在約二千人のアメリカ人留学生が日本の大学や大学院で学んでいます。これよりもはるかに多くの日本人留学生がアメリカの大学や大学院で学んでいます。そして、現在一千人以上のアメリカ人が、日本の学校で教えています。将来、これらの重要な交流をもっともっと促進するために、今後ともわれわれにできるかぎりのことをやっていきたい、と私は希望しています。

私の考えでは、これらの交流によって、知的にも、文化という面でも、視野を広げることができまし、これらの経験に参加した非常に多くの人々が、わが国の、また両国の偉大な指導者になっているようです。日本の現首相である宮沢総理がその一人です。ご存じない方もおられるかもしれませんが、宮沢総理は、大学生だった時、南カリフォルニア大学で開かれた第六回日米学生会議に参加されています。

ここでまた、海部前総理を例にお話ししますが、海部氏の最初の訪米は、アメリカ広報・文化交流庁のインターナショナル・ビジター・プログラムによるものでした。その後、文部大臣として、また総理として、両国間の相互理解を真に深める教育交流やエグゼクティブの交流を促進するべく、大いにご尽力されました。交流の価値を理解しておられたもう一人の日本の指導者は、私の友人であった故安倍元外相でした。安倍氏がその設立にあたって大いにご尽力された日米親善交流基金（日米センター）は、このような学生交流を支援するうえで、同氏の優れたお仕事を継承しています。

ですからこのような交流はすべて、今回の訪日の重要な目的の一環をなしているのです。つまり、両国間の交流の機会を生み出し、拡大していくということです。私は、日米両国民がお互いをもっともっとよく理解するようになることを願っています。私たちは、日本語を話し、日本市場の仕組みを理解しているアメリカ人をもっとたくさん必要としています。

私は、アメリカの商品とサービスの対日市場アクセスを拡大したいのです。開放された市場は、学生交流同様に、参加者すべてに恩恵をもたらしますし、相互理解を深めるうえでも役立ちます。開放された市場は技術の進歩をもたらし、事実、グローバルな市場の広がりを通して、すべての人々の生活水準を向上させ、消費者に利益をもたらします。

アジア歴訪の旅を始めてから、私はこう言い続けてきました。皆さんの中に経済専攻の諸君がおられると思いますが、自由で開放された商業活動は、ゼロサム・ゲームではない

と、私は強く確信しています。平等な土俵の上での自由貿易は、雇用を生み出し、日米両国の生活水準を引き上げてくれます。従って、国際競争という試験によって、私たちの教育改革努力を推進することができます。

ここにお集りの諸君がご存じかどうかわかりませんが、わが国には「アメリカ二〇〇〇年」と称する全国レベルの計画があり、これにはあらゆる人々——議会の両サイド、つまり民主党議員と共和党議員、さらにアメリカ全土の州知事——が参加しており、彼らの協力を得て、私は六つの主要な教育目標を設定しました。アメリカの教育分野の指導者や専門家たちは、わが国の教育機関をどのように改善できるかに関して、日本の例をいくつか参考にしています。

デイビッド・カーンズという名前をご存じでしょうか。カーンズ氏は現在わが国の教育次官ですが、これまで日本の高品質の製品を研究するため何度も訪日しています。最初はアメリカの有力企業であるゼロックス社の会長および代表取締役として訪日し、多くのアイデアを持ち帰って、現在、教育省でその実践のために努力しています。アメリカの教育専門家は、日本の親がアメリカの親に比べて子供の学校により積極的に関わり、より良い教育を学校に求めている事実を重視しています。それ故、私たちは親の教育に対する関心を高める方法を模索しています。

身内について手前味噌なことを言わせていただければ、私の妻パーバラは——私たちは四十七年前のちょうど昨日、結婚式をあげたのですが、つまり私たちは新婚なのです（拍手）——もっと子供たちが本を読むように、また家族にも子供たちに本を読んであげるよう働きかけていますし、また成人教育にも力を入れています。こういったことはすべて、この「アメリカ二〇〇〇年」計画に貢献するものです。事実、この春には、APEC（アジア・太平洋経済協力関係会議）加盟国の教育担当大臣による会合を聞く予定です。そこでは、教育水準の引き上げという共通の問題を取り上げ、人々の創造力と活力という貴重な資源を最大限引き出すことを目指して、十五カ国の経験を結集することになっています。

学生交流は、技術や専門知識を越えた効果をもっています。個人の精神を豊かにし、コミュニケーションや国の文化を育みます。ですから、学生交流は必要なのです。学生交流は、市場や制度の効率向上のために必要ですが、人文科学や、歴史、美術、哲学、宗教学、語学、文学などの分野の交流も、決して怠ってはなりません。

一九九〇年度ノーベル文学賞を受賞したオクタビオ・パースは、次のような言葉で、このことをうまく表現しています。「人間が詩を忘れたら、自らを失うことになる」。ですから、教養科目専攻の諸君は、自らが取り組んでいる勉強に強い誇りをもつべきです。それを信じられないのなら、ノーベル賞受賞者のオクタビオ・パース氏に聞いてもらいなさい（笑い）。

私は皆さんに敬意を表します。皆さんの学問探求と冒険の精神を称えます。時に孤独を感じたら、大きな視野に立って考えて下さい。私は、このようにとらえています。教育改革

善が切実に必要とされ、人々の相互理解が切実に求められていることを考えれば、諸君はここにいるだけでも、また、ここで勉強し、この偉大な国の文化を理解しているだけでも、すでに重要なことをしていることになるのです。諸君は本当に重要なことをしているのだと、私は思っています。

最後に、私の職務、つまり大統領職について一言申し上げて、話を終えたいと思います。アメリカの歴史、特に近年の歴史の中で、アメリカ合衆国大統領であることに、今ほど興奮を覚える時代はないと思います。ほんの二年ほど前、東ヨーロッパがどのような状態であったかを振り返って見て下さい。中東では紛争当事国が話し合うことすら拒否していたことを考えて見て下さい。君たちが今よりも二、三才若かった頃に私たちが脅威に感じていたソ連のことを振り返って見て下さい。ひょっとしたら核兵器によるホロコーストのような事態に発展するかもしれない、と諸君は思っていたのではないのでしょうか。わが国をはじめ、世界中の国々で子供たちは不安な思いで眠りに就いていました。しかし、それは変わりつつあります。良い方向に変わりつつあるのです。

ですから、残る唯一の超大国——軍事と経済の両方の意味では多分そうだと思うのですが——と言われる国を代表するには、現在は非常にエキサイティングな時代です。私たちが目指しているのは、私たちの創意とエネルギーを駆使して——本日ここにお集りの人々はその良い例ですが——世界中の人々を助け、平和を維持し、先ほど申し上げたように、市場開放とアメリカ経済の活性化を通じて、アメリカ国民の生活水準を引き上げることです。

ですから、大統領が誰であっても必ず直面するこれらの闘いに立ち向かい、挑戦を受けて立つには、今はすばらしい時代なのです。先ほども申し上げたように、今回私は、言わば顔見せのように、ちょっと立ち寄ったにすぎません。しかし、こうして見渡しますと、皆さんの熱意を感じる事ができます。今年が皆さん一人一人にとって良い年である事を、また、重要な学業に取り組んでおられる皆さんに、神のご加護があることをお祈りしています。